

令和7年度 畜産研究課 試験研究課題一覧

	対象	研究課題名	研究内容	研究期間	予算区分	共同・協力機関
1	肉用牛	「脂の旨さ」を引き出す肉牛肥育技術の開発	肥育後期に脂肪酸カルシウムを給与し、脂肪の質の改善効果について検討する。また、供試牛について脂肪の質に影響する遺伝的能力を調査し、個体の特性に応じた飼料給与による「脂の質」の改善を試みる。	R5～R7	県単プロ (ブランド育成)	県畜産協会 JA全農徳島県支部
2	肉用牛	地域ブランドを活用した地域資源活用飼養技術の確立(和牛繁殖への未利用資源)	飼料価格高騰に対応するため、県下で多量に発生する規格外ニンジン周年利用が可能となるようサイレージ化を試みる。また、これを繁殖牛や分娩を控えた牛に与えることで、繁殖成績と子牛の免疫の向上を図る。	R6～R8	地方創生 (環境負荷)	
3	肉用牛	高能力後継繁殖牛確保に向けた発育性調査	後継候補雌牛の発育成績、遺伝能力評価を実施し、高能力な後継繁殖牛の確保と増頭を推進する。	R7～	県単	全国和牛登録協会
4	肉用牛	受精卵供給センター事業	黒毛和種牛の優良受精卵を採卵し県内畜産農家に供給することにより、繁殖牛の改良と肉用素牛の増頭を図る。	H1～	県単	
5	肉用牛	県有和牛遺伝資源供給体制強化事業	畜産経営の状況に伴い、受精卵需用が拡大している。これに対応するため、県有繁殖雌牛の増頭と受精卵採取技術の更新により受精卵生産の強化を図る。また、引き続き残る種雄牛候補牛の造成に取り組み、県内和牛の遺伝能力調査と合わせた効果的交配の推進を行う。	R7～	交付金	全国和牛登録協会
6	乳牛	乳牛の疾病予防及び繁殖向上に有効な外貌変化モニタリング技術の開発	画像解析によるカウシグナルのモニタリング技術の開発により、早期に異常や問題を発見し迅速に解決策を酪農家へ提示するシステムの構築を目指す。AI利用による飼養管理診断システムの基礎を構築する。	R6～R8	地方創生 (生産性)	県酪
7	乳牛	中規模酪農経営改善推進事業 (乳用牛群検定普及定着化事業)	検定成績の分析指導と牛群検定農家及び検定指導員を対象として、牛群検定情報の活用促進を図るための研修会を開催する。	H13～	県単 (畜産振興)	県酪 牛群検定組合
8	乳牛	家畜改良総合対策推進事業	受精卵移植技術により、県内で飼養されている乳牛の優良遺伝子を有効活用し、酪農経営の維持発展を図る。	H20～	県単 (畜産振興)	
9	豚	徳島県産豚肉の品質向上に関する実証試験	「高温ストレス耐性のある豚群作出技術の開発」(R2～R4)に取組み、遺伝子型により肉質に差のある1塩基DNA多型(SNP)を発見した。それらの情報を種畜選抜時の指標として用いた場合の改良効果を検証するため、実際に種畜を選抜、その産子の肉質評価を行う。また、生産者の豚についてSNPと肉質の関連性を調査し、生産者で有効なSNPを明らかにする。	R5～R7	県単プロ	
10	豚	低コスト飼料による豚収益性向上技術の開発	養豚農家の収益性を向上する技術として、低TDN飼料を利用した枝肉の上物率向上技術の開発に取り組み、増体への影響を小さくする給与法を検討するとともに、安価原料の割合を増やすことで飼料の低コスト化を図る。	R7～R9	県単プロ	
11	豚	開放型育種による効率的な豚の改良技術に関する試験	雌系品種として広く利用されている大ヨークシャー、ランドレース及び雄系品種のデュロックについて、SNP及び育種価による能力評価と選抜を行い、効率的な種豚の改良技術の開発に取り組みとともに改良した種豚を供給する。	R1～	県単	
12	豚	地域ブランドを活用した地域資源活用飼養技術の確立(豚へのメカブ給与試験)	繁殖母豚にメカブを給与し、腸内細菌叢の変化やストレス指標の評価を行う。また、繁殖成績・子豚の発育成績から、母豚の耐ストレス性及び生産性の効果を明らかにする。	R6～R8	地方創生 (環境負荷)	徳島大学
13	阿波とん豚	「阿波とん豚」増産・流通システム確立事業	阿波とん豚の繁殖能力に関連したDNAマーカーを実際の育種改良に利用し、繁殖能力の高い遺伝子を持つ阿波とん豚種豚を生産農場へ供給することにより、阿波とん豚の増産体制の強化に取り組む。	R3～	地方創生 (畜産振興)	
14	阿波とん豚	抗病性改良による阿波とん豚の育成率向上試験	阿波とん豚において、疾病に影響を及ぼす形質(増体・死亡率・内臓の病変等)を調査し、抗病性の指標とする一方、抗病性に影響する遺伝子が報告されている領域を中心に解析を行い、指標とした形質と関連性のあるDNAマーカーを探索する。これらの取組により、阿波とん豚の抗病性を改良するためDNAマーカーを開発する。	R6～R8	県単プロ (養豚の生産性向上)	
15	阿波とん豚	阿波とん豚の維持に関する試験	新しい戻し交配世代における第6及び15染色体遺伝子の固定(マイクロサテライトDNAマーカーによる)、固定豚の中から発育に関わる遺伝子領域の絞り込みを行い、阿波とん豚の特徴を保持しながら、発育等について緩やかな改良を図る。	H28～	県単	
16	肉用鶏	中山間地域における肉用鶏のスマート飼養管理技術の確立	鶏舎管理の効率化を図るため、鶏舎内の温湿度等、環境データをスマホ等で把握できるセンサー機器を、畜産研究課の試験鶏舎及び連携機関の農場に設置し、環境モニタリング、肉用鶏の育成成績等のデータを収集・蓄積・分析する。また、分析結果を基に、本県中山間地域に適応する環境測定システムの改良に取り組む。	R7～R9	地方創生 (生産性)	吉野川養鶏農協 (株)イシイ
17	肉用鶏	地域ブランドを活用した地域資源活用飼養技術の確立(阿波尾鶏への飼料米給与試験)	県産飼料用米の利用拡大及び飼料費削減を図るため、市販配合飼料への飼料用米上乗せ添加した飼料給与による阿波尾鶏の育成成績や肉質等に及ぼす影響を評価し、科学的根拠の明示及び適切な添加量等を検討する。	R6～R8	地方創生 (環境負荷)	美馬農業支援センター 貞光食糧工業(株)
18	肉用鶏	紫外線発光ダイオードを活用した鳥インフルエンザ発生予防システムの開発	鶏舎内への病原体侵入及びエアロゾル感染を防止するため、病原性微生物の殺菌消毒効果がある紫外線発光ダイオード(UV-LED)を活用し、UV-LED照射機器ユニットを開発する。	R7	県単	日本フネン(株) 徳島大学

	対象	研究課題名	研 究 内 容	研究期間	予算区分	共同・協力機関
19	肉用鶏	ブロイラー産肉能力試験	ブロイラーの改良動向を把握し、県内養鶏農家の飼養管理技術改善に結びつける指針を得るため、県内流通の主要銘柄について産肉能力を調査する。	S52～	県単	
20	阿波尾鶏	阿波尾鶏安定生産確保事業	「阿波尾鶏」の品質保持及び安定生産を図るため、生産規模に応じた原々種鶏群系統の維持及び種卵供給等に取り組む。	H13～	県単	県養鶏協会
21	飼料作物	「国産濃厚飼料」の省力栽培技術の確立	水田転換畑での輪作による子実用トウモロコシの栽培において、化学肥料の低減や省力栽培に取り組み、安定した生産技術を開発する。	R7～R9	地方創生 (環境負荷)	各農業支援センター
22	飼料作物	高能力飼料作物優良品種選定調査	本県に適した生育性・収量性に優れた飼料作物の品種選定を行い、優良品種の普及促進に努め、粗飼料自給率の向上を図る。	H22～	受託	日本草地畜産種子協会
23	飼料作物	飼料高騰対策に向けた粗飼料増産方法の検討	本県の利用体系や気候風土に適した粗飼料増産を図るため、寒地型イネ化牧草で夏場まで長期間収量確保ができる品種を検討する。	R7～R9	県単	
24	飼料作物	自給飼料対策事業	畜産農家の適切な飼料給与を図るため、自給飼料等の成分分析を実施する。	H19～	県単	
25	飼料	流通飼料対策推進事業	牛飼料の製造、販売業者及び畜産経営者において、牛用飼料を採取し、牛由来たん白質の検出することにより、飼料安全法の遵守状況を確認する。	H18～	県単	
26	環境	畜舎汚水処理水の水質向上技術の開発	一般排水基準が導入されても対応可能なように、処理水中の硝酸態窒素(N)、リン(P)、COD等を低減する汚水の負荷軽減技術について検討する。	R6～R8	県単	
27	環境	畜産バイオマス利活用推進事業 (環境汚染防止対策) (堆肥等品質・成分分析) (環境汚染防止対策)	畜産経営における環境汚染防止を図るため、総合的な指導体制を整備するとともに堆肥の効率的な生産・利用を促進する。また、堆肥、尿汚水の成分分析を実施する。 また、堆肥、尿汚水の品質、成分分析を実施し、畜産経営における環境汚染防止を図るため、総合的な指導体制を整備するとともに堆肥の効率的な生産・利用を促進する。	H28～	県単	資源環境研究課 農業支援センター
28	環境	養鶏場におけるハエの防除対策の検討	鳥インフルエンザウイルスが鶏舎へ運搬される要因としてハエ(クロバエ類)が考えられている。そこで、鶏舎へのクロバエ類の飛来状況を調査し、効率的な防除方法を検討する。	R6～7	地方創生 (生産性)	家畜保健衛生所